

奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



「奈良公園のシカ」について

明石 嘉一郎

平成20年7月19日(土)、奈良県版レッドデータブック作成記念シンポジウムが奈良教育大学で開かれた。「大切にしたい奈良県の野生動植物の選定を終えて」の基調講演、そして、「大切にしたい動植物をまもるために私たちにできること」と題し、パネリスト4名の話があった。その後、質疑応答に入り参加者から、「柵田の景観を後世に残そうと、地元の人々と一緒に再生に取り組んでいるが、活動地域の野生動植物をまもるために、どのような事を考え作業する必要があるか」「春日山原始林等の整備について、行政はどのような施策を考えているか」「鳥獣被害(シカ・イノシシ・サル)に対する保全について」等々の話が出された。質疑応答の中で、私が「おや?」と思った事があった。

「シカの食害」に関して、「奈良公園にシカはいらない」「奈良公園を元の植生に」との話である。発言者の詳細な事情は分からないが、シカとの共生の中で食害の被害に長い間悩まされているのだろうか?とふと思った。私も奈良定住後実質5年良く分からない事が多い。もう一度「奈良のシカ」について考えて見る事にした。シカの食害の被害については、「大台ヶ原」の話はよく聞く。

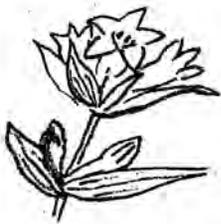
ここで「奈良公園ものがたり」青山茂氏の記述をお借りする。

「奈良のシカ」は、1200年以上の昔から藤原家・興福寺・南都守護職・奈良奉行が「神鹿保護」の一貫した政策によって、大切に保護されたこともあって人との共存関係(時には人が鹿の存在のために生存権を圧迫されたり奪われたりしたことがあったが)を保ち続けた。人権を無視してまでも神鹿として特別の扱いを受けてきた「奈良のシカ」の棲息数は寛文11年(推定)数百頭、元禄年間(推定)千頭前後、明治維新当初廃仏棄釈で興福寺の力が衰え、後ろ盾を失うと迫害を受け、明治10年にはわずか30数頭に減少。第二次大戦で、人に馴れた公園の鹿は蛋白資源として狙われ終戦直後は79頭になる等幾多の受難の時を経る。そして、戦後の「神鹿」としての存在から、観光資源としての鹿に衣替えし現在に至っている……。

こう考えてくると「奈良公園の鹿」の趨勢は、他の動植物にそのまま当て嵌まる、と思えてならない。「奈良公園のシカ」に絞って、一端を書きました。

前述、青山茂氏は「奈良公園というものが一朝一夕にして出来たものではないこと、それは長い日本の歴史の歩みとともに、人間の営みと自然の移ろいとがうまく関連しながら、独特の景観をつくり上げてきたもの」と書いています……。その中の一つにシカがいると思います。前述シンポジウムでの質疑から生じた疑問は、何か解ける入口が見えた様に思えてなりません。

参考文献 新潮社 こんなに面白い奈良公園



季節感と日本語 IV

川井 秀夫

雨の風情は、四季折々に情感を演出して呉れるが、社会生活に災害をもたらす要因になる事も多い。九月の声を聞くと、決まって忌まわしい記憶が鮮明に蘇ってくる。

昭和34年9月26日。世に言う「伊勢湾台風」である。当時、私は名古屋勤務で独身生活を謳歌していたが、夜半から猛烈な雨と風。夜が明けると惨禍のニュースが入り、主力工場が水没、従業員の悲報が伝えられ、寮が救済本部となり一夜にして戦場となる。

雨風の直撃も未曾有のものだったが、高潮が重なり沿岸に係留されていた木材が一瞬の内に住宅地域に流木として侵入し、数千人の死者を出す大惨事となった。

収容された遺体を幾体見たことか、凄惨な阿鼻叫喚の間の中の出来事が、その表情に刻まれ痛ましい光景に絶句したものである。正に魔性の雨。悪魔の風であった。

当時、インフラ整備も進まず、防潮堤がなかった事が最大原因と言われている。

最近の集中豪雨はどうだろうか。昔、夏の夕立は風物詩の様なもので、クーラーの無い時代、雨が止むと外へ出て床几に団扇、蚊取り線香の匂いを嗅ぎながら、ひとときの涼を楽しんだものである。昨今の気候変動は温暖化の影響を指摘する声が多く、否定する積もりは無いが、私には都会の生活様式の変化、コンクリートによる土壌の凝結、緑帯の減少、街路樹の過度な剪定、等々。行き場の無い熱風が上昇気流となり、周辺都市に豪雨を呼び、正に人間社会に対する天の鉄槌と言うべき現象が恒常化しつつある。驟雨とか、にわか雨・日照雨と言った潤いのある言葉も死語になりつつある時代が淋しい。

閑話休題。詩歌、文学には地名を冠した雨も多い。「城ヶ島の雨」「瀬田の煙雨」「土佐の夜雨」。ご当地、奈良八景の中には「雲井坂の雨」がある。雲井坂は転害門に至る県道の緩やかな坂を言う。

雷雨と言うのも面白いと言っては不謹慎だが、私には心を鼓舞してくれる様で、天の打楽器奏者に聞き惚れる。俳句では「はたた神」と表現する事が多いが「はたた」とは霹靂（へきれき）の意味であり、「青天の霹靂」のあれである。

他に「いかづち」「日雷」「鳴神」「遠雷」「迅雷」「雷火」とも言われるが、物事の好き嫌いは、その人の体験に根差す事が多く、私など前記の経験から台風恐怖症となり、台風シーズンになると、気象ニュースに一喜一憂し、どこかへ逃亡したくなる事がしばしばである。弱虫と言う勿れ。

今年も地震、豪雨、鉄砲水、竜巻、高温と天変地異が多かった様に思う。

避けられない現象も多いが、人為的な防災対策の不備も被害を増幅しているのも自明の理であり、自然に対する畏れ、傲慢な人間の営みに、新めて謙虚さを省みたいものである。

この稿は一旦休筆しますが、「植物」「昆虫」「野鳥」の切り口で再開したいと思えます。次号から「私の思いでの記」として活動現場の人間模様を書きたいと思えます。



7月26日(土) 晴 山と森の月間イベント「ならやまで遊ぼう屋」 スタッフ13名

猛暑の中、網と虫かごを手に児童・保護者計22名が参加。今回からベース・キャンプを山際の緑陰広場にうつす。日なたより気温が4~5度も低く、木の間を渡る風が心地よい。

山歩きの注意と昆虫の解説の後、年長組(リーダー菊川さん・守口さん) 年少組(林さん・勝田さん) に別れて観察に出発する。広場上空には、ギンヤンマ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボが遊弋して子供たちを誘う。林の中ではお目当ての、ミヤマクワガタ、コクワガタをゲット。クワの木に蚕の先祖のクワゴがいて、林縁部にはさまざまなチョウ、ハチ、カナブンなどなど。今日確認できた昆虫の数は50種類にのぼった。午後は自然工作の昆虫作り、お手製の水鉄砲とぼしを、涼しい木陰に子供たちの楽しそうな声が終日響いていた。

アンケートには、全員が大満足と答えてくれて、世話したスタッフにとっても充実感のある一日となりました。 解散 3時

7月31日(木) 晴 参加者13名 草刈り ナス収穫、サツマイモ蔓返し

昨日「ならやまで遊ぼう屋」のイベントが奈良TVで放映された。好意的な内容で、出演したメンバーや会員からは大変良かったとの評判。中でもインタビューされた近隣住民の方から、我々の活動を評価するという複数の発言があり、大いに勇気付けられる。奈良・人と自然の会として良いPRとなったと思う。

夏枯れの時期を迎えて、ナスクラブの水遣り当番制は、メンバーの協力で円滑に回転している。ただ、無農薬栽培のためテントウムシダマシの虫害が目立つが、手による駆除に頼るだけで、まさにお手上げの状態。何か良い方法はないものか。 2時30分 解散

8月8日(金) 晴 参加者16名 A地区山の竹間伐、草刈り、垣根修復

8:30 始動。今回から、阿部会長の外部講演を聴いて参加された新しい仲間(井戸八穂子さん)が加わる。心から歓迎します。無理せず、マイペースで頑張ってください。

A地区の山地の竹やぶの整理が進行中。ここは、もと栗林だったらしく、拡大する竹に押されながらも、クリの木が生き残っている。今秋までに竹林の除伐を完了させて、新たに苗木を補植し、里山の魅力としての栗林の復元を目指したいと思う。

ナスクラブは、更新剪定を実施。暑さに弱った枝を切り詰め、たっぷりの肥料と灌水を施して、樹勢の回復を待つ。うまくいけば、9月以降、やわらかい秋茄子が期待できるかも。

自転車道路沿いの竹垣の腐朽が目立つので作り直す。ゴミは回収してもまた投棄される。草刈などの管理面積は拡大する。当然の事ながら、昨年始からの景観形成作業に並行して、維持、保全の作業のウェイトが徐々に増してくる。マンパワーはまだまだ増強しなくてはならない。行政のバックアップ確保、地元への働きかけ、シニア自然大学の実習生の受け入れ、ホームページによるPR、各種イベントでの啓蒙活動、マスコミの活用など裾野の広がりのために、より多方面への働きかけが必要である。 2時30分 解散

追記

山野草区画では、オミナエシが花盛りです。まもなく、フジバカマも開花します。花壇では、百日草、コスモスがきれいです。興味のある方、一度お立ち寄り下さい。

(古川 祐司 記)

ならやま里山林自然観察レポート

オオマツヨイグサ、ベニバナボロギク、イヌタデ、ヘクソカズラ、ツククサ等が咲いています。花は終わりましたがコ克蘭の群生地を新たに2ヶ所見付けました。来年7月を楽しみにしておいて下さい。

畑では華やかさと明るさを与えてくれていたヒマワリは終わりましたがオミナエシ、ヒヤクニチソウが元気です。

(林 令子)

ならやまで遊ぼう屋 笑顔の溢れた一日でした 勝田 緑

昆虫の苦手な私は、チョウやトンボの名前はほとんど分からず、その他の昆虫は全然分かりません。事前に菅井先生の「ものの見方を育む自然観察入門」の本を読み返し、教えるよりも感じ・考えることを大切にの言葉を頼りに参加しました。

子供たちは高学年と低学年に分かれました。私は低学年のグループ担当で、幼稚園の子から4年生ぐらいまででした。林リーダーの下みんなでお出立しました。ヒマワリ畑の前で「ヒマワリは太陽と共に回る？」そんな質問にみんな「??？」チョウトンボがヒラヒラと飛んでいます。少し行くと「昆虫酒場」(コナラからお酒の成分が出ている)に到着。な・な・なんと!!!ミヤマクワガタがいました。よく見るクワガタより数段大きいです。子供も大人も目が輝きました。

「このにおいは?」「あっヨモギや!」「いいにおいやなあ。」「これは?」みんなの顔がゆがみます。「ウエーッ。」ヘクソカズラの臭いでした。

小さな女の子がコクワガタを捕まえました。大事そうにカゴの中に入れました。途中カマキリを捕まえ、シオカラを捕まえ、みんな汗だくになっています。小さい女の子のお母さんが、初めは涼しいところから出るのを嫌がっていたのに、今はいつまでも遊んでいたいと言っていると話してくれました。帰ってくると、会員さんが木の腐ったのをコクワガタのかごに入れてくれました。「ゼリーを入れて世話したら大きくなるよ。」小さな女の子が真剣に聞き入っていました。楽しそうな光景でした。

午後は昆虫の工作です。みんな難しいところをてつだってもらいながらかわいい作品ができあがりました。夏休みの宿題が出来たと喜ぶ子もいました。

奈良TVから感想を聞かれて、親子とも楽しかったとっている笑顔がよかったです。

幹事さん方がよく準備され、本当にいい行事ができました。

大人のマニュアル通りに動かすのではなく、安全な範囲で子供たちが自分から身体を動かして活躍することの大切さを学んだ一日でした。



今日はとっても
楽しい日でした。

伊部 真守君 (小4)

竹きりはお任せ下さい……

平井 隆三

散歩の途中作業をされている会員に声をかけたのが、私たちの会との出会いでした。私は平城山のフィールドに隣接する佐保台の住宅地に20数年前に引っこしてきました。今も自然環境がよく私のお気に入りの居住地ですが、当時はもっと緑が多く勤務地の大阪から帰ってくるとドリームランドを越えたあたりから、気温があきらかに変わるのが判ったほどでした。平城山フィールドも畑や田んぼが整然と管理されており、今思えば里山がそのまま残っていたのです。定年を前に友人から森林ボランティアに参加しないかと誘われ、枚方の野外センターで家内とともに活動してきました。そこでは主に竹の伐採をし、その跡地に植林をするような活動で、良い仲間たちと楽しく活動をつづけてきました。一方散歩をするたびに平城山の自転車道の両端が荒れてくることに気がつくのにはそんなに時間は要りませんでした。人と自然の会がこの地で活動をしていただいていることに本当に感謝しています。皆さんのように自然観察の知識はありませんが、竹きりは任せてください。会のことをもっとよく知りたいと思います。近所の人たちにも声をかけ多くの人が、仲間になってくれたらと願っています。

人と自然の係わりについて

谷川 雅邦

豊かな自然の叫びとそっと語りかける囁き その優しく澄んだ眼差しに深い静けさの中で
いつのまにか人は自然に心を奪われるのだ

人は自然の恵みを授かりその優しさに素直な心の豊かさを育みます。人に命があるように木々や草花、そして山や河、空や雲にも風にだってそれぞれの命が宿っています。雨の日も風の日も互いに言葉にならない小さな声で語りかけ喜びも哀しみも共に助け合い明るく楽しく生きています。だから人と自然は昔から大好きな友達同士なんです。

風薫る信濃路の緑深くして零れ日の輝き冴えわたる 夏雲の流れに追いつがるようにひた走る緑のざわめき 襟に流したジュータンのように山裾が幾重にも広がって 深い谷間にふり注ぐ夕日はなだらかに優美な光の影となる 静かに動く山影が陽ざしのおもむくままに山肌を駆け抜け まるで長く短い夏の汗を流すように季節が過ぎ去ってゆく 眼差し眩しい生きた自然の音色と囁きが胸に聞こえるようだ

(晩夏の信濃路にて)

自然俳句欄

秋茄子の今ひとたびの実りかな 秀 夫

なら山里山林。夏の茄子も終わりを告げる。
秋茄子に実りの再現をと手入れが続く。成否や如何に。



モズ 「百舌鳥の銭勘請」

小田 久美子

8/9 平城旧跡に出かけたら「キーキー ｷｷｷ」のソロが聞こえました。まだ熱中症が心配な暑～い日、いつもなら葦原はまだ「ギョウギョウキョウギョウ」のコーラスのはずですが、立秋は8/7、彼らは暦を理解してバトタッチがもう済んだのでしょうか。

昔話 —ある時、モズとハトとシギが料理屋でご馳走を食べました。その食事は十五文でハトに八文、シギに七文出させてモズは払いませんでした。勘定は他人ばかりに払わせて自分は少しも出さないことを「百舌鳥の銭勘定」といったそうです。勘定になるとわざともたしたり、急にいなくなったりして誤魔化す人をモズというのだそうです。ホトトギスに借りたお金を返さなかったり、昔話のモズはいい性格ではなかったようです。スズメ大のクリクリした目をした顔はとても可愛い小鳥なのに、どうして狡賢い役所にキャスティングされてきたのでしょうか。奈良では「百舌鳥が鳴き始めると風が吹かない」という俗信があるそうです。



わくわくびっくり奈良発見 その3

守口 京子



トウバナ 2cm



カタバミ 2.5cm



ツメクサ 2cm

奈良公園の草花は小さい。2年ほど前奈良に通い始めたころ、奈良公園には芝が生えていてその芝を鹿がせっせと食べるので、鹿の嫌いなイワヒメワラビやイラクサなどを除くと草花は生えていないと思っていた。ところがよく見ると芝の間に色々な草花が生えているのに気がついた。そこで今回はものさしと虫めがねを持って写生に出かけた。かわいい花がちゃんと咲いていてうれしかった。トウバナはシソ科の花らしく唇形の花で先が赤紫で美しい。カタバミは日当たりのよい所では花を開いていたが、日陰では閉じていた。鮮やかな黄橙色が目立つ。ツメクサの花は白くて小さくてほとんど観察不可能、でも濃緑の細長い葉がたくさん出ていてつやつやとしていた。

人に踏まれ鹿に食べられながらも、芝の陰に隠れるように育ち、花を咲かせ実をつけ子孫を増やしているしたたかな草花。奈良の草花はすごい。

しちょうきじょうほう

★(橿原)14日午後2時ごろツクツクボウシが鳴きました。去年は15日おとしは13日 同じような日に土から出てくるんですね。なんか夏も後半戦かと感慨深いです。夕方畑(橿原)で「キョ キョ キョ キョ」そのあとで「ツクツクボウシ オーシンツクツク」そのあとで「チョットコイ チョットコイ」賑やかでした。ホトギスまだ奥山に帰ってなかったんですね。という風で我が家は朝から一日中なんかの音が聞こえてきて朝は「カナカナ」や「チョットコイ」で起こされたりでそれがまた楽しみなんです。

・7月22日の午前12時過ぎ頃ゴイサギが「ギャー ギャー」と鳴いて通り過ぎる声で眠りかけのところを起こされてしまいました。夜にカラスが鳴いているように聞こえることから「夜ガラス」という異名があるとのこと。このゴイサギの名の由来が「平家物語」にあるのです。(齋藤)

★(平城京跡)14日ツバメの群入りを見に行きました。6時50分頃2、3羽もうこないのでは?と思っていると薄暗くなった空に本当に何処から湧いてきたのかと思われるように空が黒くなってきました。ツバメの集団があちこちで空に大きな円を描くように飛び回っています。本当に見応えのあるショーでした。(勝田)

お知らせ

今年の新春講演会でお世話になりました森本範正先生から当会へ下記の書籍を寄贈していただきました。2008「大切にしたい奈良県の野生動植物」—奈良県版レッドデータブック—植物昆虫類編 *ご購入の方は林令子 までご連絡ください。

訃報：本会会員 西 健吉様 平成20年7月26日ご逝去されました。ご冥福をお祈りします。



原則 前日の午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前)60%以上の場合は中止

【奈良忍辱山森林整備作業】

場所： 奈良市忍辱町 国有林 東海自然歩道沿いの二次林です。

(忍辱山円成寺駐車場)より徒歩10分

集合場所： 国道369号線—忍辱山町自治会共有地(池のそば)駐車場
(奈良交通バス停 忍辱山円成寺口下車 少し戻る南川側)

日時： 9月17日(水) 予備日9月24日(水)

10月15日(水) 予備日10月22日(水)

【集合時間9:10より、終了予定Pm3:00ころ】

交通： 奈良交通バス 近鉄奈良駅前バス乗り場④番 8:18 柳生・月ヶ瀬温泉行き
9:40のバスご乗車の方は、直接現地へお願いします。

(持ち物) 作業のできる服装、昼食、飲み物、手袋、
ヘルメット、のこぎり、防護メガネなどの用具は、準備していますが、
お手持ちのものあれば持参ください。ご参加お待ちしております!!

(連絡先) 弓場厚次

明石嘉一郎 (

板橋宏昌

『ならやま里山林プロジェクト9月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)

—「ならやま会館」前の道路 (ならやま大通り) の南側に広がる林地—

日時 9月11日 (木) 一般活動日

9月13日 (土) 第一回 芋掘り大会 (会員家族対象 要・事前申込)

9月27日 (土) 一般活動日・菜の花プロジェクト

9月30日 (火) 予備日 *いずれも 9時集合 終了予定3時

集合 現地ベースキャンプ地

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:30発 JR奈良行

①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品 弁当、飲み物、軍手 (作業用具は現地に用意しています)

活動内容・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成

畑作業は、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り、

景観クリエイター募集

里山にふさわしい景観を作りたいと思っています。花、樹木の植栽に関心のあるボランティアを募集します。また、花壇・山野草類の育成についてアイデアや苗をご提供下さい。

また果樹の苗なども寄贈いただければ幸いです。

(申込み・問合せ先: 古川

小嶺

<9月例会> 「赤埴の巨樹と佛隆寺」

—彼岸花の参道が美しい佛隆寺—

空海の高弟の賢恵(けんね)が嘉祥3年(850)に創建したと伝わる古刹。室生寺の末寺で、県下最古の樹齢900年といわれるヤマザクラとエドヒガンの雑種モチズキザクラ(県指定天然記念物)と大和三銘段のひとつとなっている197段の石段の両側に咲き乱れる彼岸花の美しい、大和茶発祥の地佛隆寺と、茅葺屋根の残る赤埴地区の巨樹(イチヨウ、カエデ、イチイガシ、ケヤキ)を訪ねませんか。

とりわけ、弘法大師が弁当を食べた箸をさして伸びたといわれる高井の神木・千本杉(県指定天然記念物)は圧巻です。そして、伊勢街道筋に残る大和棟の旅籠跡の古民家を訪ねます。

日時: 9月26日(金)

集合: 近鉄榛原駅 南口 バス停留所 10時05分 [10:15発に乗車]

・大和西大寺9:27...大和八木9:47着(乗換)

・橿原神宮前9:41...大和八木9:47着(乗換)

・上本町9:15(急・宇治山田行)・鶴橋9:17...大和八木9:50...榛原 10:04着

コース: 歩行時間 約3時間 (ハイキングコースです)

近鉄榛原駅(バス)「高井」... (室生古道)... 「佛隆寺」(拝観・300円・自由)(イチヨウ)

白岩神社(昼食)... (カエデ)... 藤村氏宅裏(ケヤキ)... 小松林氏宅(イチイガシ)...

千体佛... 津越家... 千本杉(カンカン石)... 旧旅籠・松本家... 宮田家... 「高井」バス停

14:39発のバスに乗車。(近くに「高井道の駅」あり)

持ち物: 弁当、飲物、観察用具、雨具

※当日の天候判断に迷う時は、担当幹事に電話で問い合わせてください。

担当: 林 令子

・岩田 利秋



<10月の予定>

10月例会「大和三山と藤原京跡」

—欽傍山、香臭山、耳成山、藤原京跡を訪ね古代ロマンに浸る—

日時：10月29日（水）

集合：近鉄橿原神宮前駅 中央口 10時

担当：林 令子 ・ 明石 嘉一郎

* 詳細は会報第81号（10月号）でお知らせします。



<11月の予定>

11月例会「吉野川源流を探る」のご案内

—日本最古の人工林と国指定天然記念物トガサワラの谷を訪ねる—

500年前の昔から木を育ててきた奈良県吉野郡川上村は、吉野林業発祥の地として有名ですが、下多古地区には「歴史の証人」ともいふべき日本最古の人工林や、三ノ公川源流には国指定天然記念物トガサワラが群生する天然林を所有し、保全しています。

秋も深まる11月中旬、村人が手塩にかけて育て人工林や、水を育む貴重な天然林「吉野川水源の森」を訪ねて、自然と人の営みの歴史を学ぶことといたします。宿は奥吉野一の閑静な温泉旅館で、奥吉野の秋の風情も十分お楽しみいただけたと思います。

皆様のご参加をお待ちいたします。

実施要領

日時： 11月10日（月）～11日（火） 雨天でも実施します

集合： 10時30分 近鉄大和上市駅 改札口

行き先： 奈良県吉野郡川上村 全行程マイクロバスで移動します

宿泊先： 入乃波（しおのは）温泉 「五色湯」

奈良県吉野郡川上村入乃波

募集人員： 35名 （定員になり次第締切らせていただきます）

参加費用： 概算 17000円 （バス代、宿泊代、入湯料、入館料、
入山・案内料、講師料、食事代・・・昼食代を含む4回分）

内容： 11月10日（月）・大和上市駅 マイクロバスで出発

川上村源流館にて館長辻谷達雄氏 講演「吉野林業について」

昼食 日本最古の人工林：下多古村有林見学、入乃波温泉「五色湯」泊

11月11日（火）・水源地の森（三之公川源流の天然林）観察会

案内と指導 水と森の源流館 学芸員 木村全邦氏

（北川奈良教育大名譽教授の門下生、コケの専門家）

地元評判の柿の葉齋など

大和上市駅 4時 解散

詳細： 時間表、持物服装、行程、参考資料などは、別途お知らせします。

申込先： 弓場厚次

担当幹事： 古川祐司

・ 弓場厚次

「いこま棚田クラブ」の活動日 ご案内

9月活動日・・・7日(日)、15日(月・祝)、21日(日)、29日(月)

集合場所と時間：近鉄生駒駅下車、南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前 AM9時集合
現地まで車で移動15分。弁当・飲み物持参下さい。

*9月の作業は、菜の花地おこし、稲刈り等です

奈良・人と自然の会 8月度幹事会議事録

日時：平成20年8月5日(火) 場所：中部公民館 司会：小嶺、記録：岩田

【報告事項】

- (1) 会員動向・会計報告 *会員在籍 98名、会計現在高 ¥1,408,429-
- (2) 7月例会「八ッ房スギから青蓮寺へ」 *天候不順のため中止した。
*今後、例会案内に「当日の天候判断に迷うときは電話で問い合わせる」ように明記。
- (3) 奈良・忍辱山森林整備作業 *研修の場として活動を継続する。
- (4) ならやま里山林プロジェクト *7月26日(土) 菊川さんの案内で22名参加。
当日の参加者アンケートでも「大変満足」が100%あった。成果として良かった。
- (5) 「森を育てる県民の集い」 *7月21日(月)、矢田山子どもの森9名参加。
- (6) その他 ①7/30(水)、「奈良TV」で当会の活動を放映。②ホームページ関係*今後、報告、写真、例会案内をメールで送信してほしい。③シニア自然大学15周年記念で会活動報告：川井顧問 ④いこま棚田*奈良コープの菜の花の種を峠道の2枚の田に蒔く予定。

【確認事項】

- (1) 8～10月スケジュールの確認
 - ・8/24(日) 黒髪山自然塾 竹工作、8/30(土) 県イベント「ならやま里山林自然体験」
 - ・例会・9/26(金)「佛隆寺と巨樹」、・10/29(水)「大和三山と藤原京」
 - ・11/10(月)～11(火)「吉野川源流を探る」(1泊2日)
 - ・奈良・忍辱山森林整備作業 (9/17, 予備9/24・10/15, 予備10/22)
 - ・ならやま里山林プロジェクト
- [9月] 9/11, 9/13(会員芋掘り)、9/27(教育実習・コープ菜の花種蒔き), 予備9/30。
[10月] 10/9, 10/25(教育実習・佐保台小学校), 10/26 黒髪山自然塾。

【討議事項】

- (1) 今後、会員にスタッフ、例会のサブリーダー等への参加要請をしていく。
- (2) 教育実習への対応について：小嶺幹事からAゾーンでの植生調査活動等の取組について提案。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生

奈良・人と自然の会

いもほり大会

日時： 9月13日（土）10時集合

場所： ならやま里山林B地区

（申込まれた方には別途案内地図を送ります）



ごあいさつ

「奈良・人と自然の会」が、佐紀・奈良阪にある県有地の里山景観保全活動（ならやま里山林プロジェクト）に取り組んで1年6ヶ月が経過しました。

この間、関係者各位のご努力によりベースキャンプ地や畑跡地、竹藪や里山の整備が着実に進み、努力の成果が徐々に見えるようになってまいりました。その状況の一部が、先日の奈良TVで放映され、地元の関心を呼んでいます。

これは偏に、会員各位のご理解・ご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

さて、今年もならやまの畑に、サツマイモの収穫の時期となりました。昨年ご好評を頂いた「会員いもほり大会」を今年も開催いたします。

ご家族、お孫たちご同伴のうえ、里山の秋をお楽しみいただきますようご案内申し上げます。

なお、真に恐縮でございますが、ならやま里山林整備事業の費用の一部に当てるため、1家族様300円のカンパを申し受けてたく存じます。活動の趣旨にご理解をたまわり、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

奈良・人と自然の会
代表 阿部 和生

携行品： 軍手、スコップ、持帰り用の袋、弁当、飲み物など

（クワ、カマ、シャベルなどの農具は、現地にあります。）

交通： *バス利用 近鉄奈良駅発 高の原行 9:37
近鉄高の原発 JR奈良駅行 9:38
（いずれも 平城大橋下車 徒歩7分）

*JR 平城山駅より徒歩10分

（現地は、駐車スペースが限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。）

参加申込

参加ご希望の方は、下記担当まで、電話、ファックスにて、氏名と人数（大人、子供）をご連絡ください。

古川 祐司（

小嶋 敏勝（